III

学部・研究科等による 取組み

III-2 千葉第2キャンパス

千葉第2キャンパス学年暦 113

看護栄養学部 115

学部レビュー

- 1 学生の受け入れ（在籍管理）
- 2 教育課程
- 3 教育組織
- 4 学生支援
- 5 就業支援
- 6 研究活動
- 7 社会貢献
- 8 図書室（千葉第2）
- 9 自己点検・評価

2014 (平成26) 年度 千葉第2キャンパス〔看護栄養学部〕 学年暦

第1部学部・研究科等による取組み | 2 千葉第2キャンパス

4 月			5 月			6 月		
1	火		1	木	4	1	日	
2	水		2	金	3/4	2	月	8
3	木		3	土		3	火	8
4	金		4	日		4	水	9
5	土		5	月		5	木	9
6	日		6	火		6	金	8/9
7	月	1	7	水	5	7	土	総合実習発表会 B型肝炎ワクチン接種2
8	火	1	8	木	5	8	日	
9	水	1	9	金	4/5	9	月	9
10	木	1	10	土		10	火	9
11	金	1	11	日		11	水	10
12	土		12	月	5	12	木	10
13	日		13	火	5	13	金	9/10
14	月	2	14	水	6	14	土	
15	火	2	15	木	6	15	日	
16	水	2	16	金	5/6	16	月	10
17	木	2	17	土		17	火	10
18	金	/2	18	日		18	水	11
19	土		19	月	6	19	木	11
20	日		20	火	6	20	金	10/11
21	月	3	21	水	7	21	土	学園建学式・教職員特別研修会・大学教職員研修会
22	火	3	22	木	7	22	日	オープンキャンパス①(予定)
23	水	3	23	金	6/7	23	月	11
24	木	3	24	土		24	火	11
25	金	2/3	25	日		25	水	12
26	土		26	月	7	26	木	12
27	日		27	火	7	27	金	11/12
28	月	4	28	水	8	28	土	
29	火	4	29	木	8	29	日	
30	水	4	30	金	7/8	30	月	12
			31	土				
7 月			8 月			9 月		
1	火	12	1	金		1	月	
2	水	13	2	土		2	火	
3	木	13/	3	日		3	水	
4	金	12/13	4	月		4	木	
5	土		5	火		5	金	
6	日		6	水		6	土	
7	月	13	7	木		7	日	
8	火	13	8	金		8	月	
9	水	14	9	土		9	火	
10	木	14/13	10	日		10	水	
11	金	13/14	11	月		11	木	
12	土		12	火		12	金	
13	日		13	水		13	土	
14	月	14	14	木		14	日	
15	火	14	15	金		15	月	
16	水	15	16	土		16	火	
17	木	15/14	17	日		17	水	
18	金	14/15	18	月		18	木	
19	土		19	火		19	金	
20	日		20	水		20	土	
21	月	15	21	木		21	日	
22	火	15	22	金		22	月	
23	水		23	土		23	火	
24	木	/15	24	日		24	水	
25	金	15/	25	月		25	木	
26	土		26	火		26	金	
27	日		27	水		27	土	
28	月		28	木		28	日	
29	火		29	金		29	月	
30	水		30	土		30	火	
31	木		31	日				

10 月			11 月			12 月		
1	水	3	1	土	振替休日(昭和の日) 龍澤祭準備日	1	月	11
2	木	3	2	日	龍澤祭	2	火	11
3	金	3	3	月	龍澤祭 祝日(文化の日)	3	水	12
4	土		4	火	振替休日(海の日) 龍澤祭片付日	4	木	12/成道会(第2C科目のみ午後休講)
5	日		5	水	8	5	金	12
6	月	4	6	木	8	6	土	
7	火	4	7	金	8	7	日	
8	水	4	8	土		8	月	12
9	木	4	9	日		9	火	12
10	金	4	10	月	8	10	水	13
11	土	B型肝炎ワクチン接種3 AOII期入学試験	11	火	8	11	木	13/12
12	日		12	水	9	12	金	13
13	月	5 通常授業(体育の日)	13	木	9	13	土	AOIII期入学試験
14	火	5	14	金	9	14	日	
15	水	5	15	土	B型肝炎抗体価検査 指定校推薦入学試験 公募推薦入学試験 社会人入学試験	15	月	13
16	木	5 教授会(予定)	16	日		16	火	13
17	金	5	17	月	9	17	水	14
18	土		18	火	9	18	木	14/13 教授会(予定)
19	日		19	水	10	19	金	14
20	月	6	20	木	10 教授会(予定)	20	土	入学前準備セミナー(予定)
21	火	6	21	金	10	21	日	
22	水	6	22	土		22	月	14
23	木	6	23	日	祝日(勤労感謝の日)	23	火	14 通常授業(天皇誕生日) 年内授業終了
24	金	6	24	月	10 通常授業(勤労感謝の日振替休日)	24	水	振替休日(敬老の日)
25	土		25	火	10	25	木	事務部窓口閉鎖期間(H26.12.25~H27.1.5)
26	日		26	水	11	26	金	
27	月	7	27	木	11	27	土	
28	火	7	28	金	11	28	日	
29	水	7	29	土		29	月	
30	木	7	30	日		30	火	
31	金	7				31	水	
1 月			2 月			3 月		
1	木	祝日(元日)	1	日		1	日	
2	金		2	月	追試験日程発表(第2C科目)	2	月	卒業生発表(4年次生)
3	土		3	火	一般入学試験	3	火	
4	日		4	水	一般入学試験 追試験期間(第2C科目)	4	水	
5	月	学園賀詞交歓会	5	木	追試験期間(第2C科目)	5	木	
6	火	15 新年授業開始	6	金	振替休日(勤労感謝の日の振替休日)	6	金	臨地実習報告会②(栄養)
7	水	15	7	土		7	土	AOIV期入学試験
8	木	15/14	8	日		8	日	
9	金	15	9	月		9	月	振替休日(天皇誕生日)
10	土		10	火		10	火	再試験期間(栄養3年生)
11	日		11	水	祝日(建国記念の日) 一般入学試験2次(看護)	11	水	再試験期間(栄養3年生)
12	月	祝日(成人の日)	12	木		12	木	
13	火	振替休日(秋分の日)	13	金	再試験対象者・日程発表(日程発表は第2C科目のみ)	13	金	
14	水		14	土		14	土	
15	木	/15 教授会(予定)	15	日		15	日	卒業式・卒業記念パーティー
16	金	振替休日(体育の日)	16	月	再試験申込締切 後学期成績発表(4年生)	16	月	
17	土	大学入試センター試験口	17	火		17	火	
18	日	大学入試センター試験	18	水	再試験申込締切(4年生のみ)	18	水	
19	月	15	19	木	再試験期間(第2C科目・看護1・2・4年生、栄養1・2年生)	19	木	教授会(予定)
20	火	授業予備期間(千葉C科目)(予定)	20	金	再試験期間(第2C科目・看護1・2・4年生、栄養1・2年生)	20	金	
21	水	授業予備期間(千葉C科目)(予定)	21	土	再試験期間(第2C科目・看護1・2・4年生、栄養1・2年生) 再試験日程発表(千葉C科目)(予定)	21	土	祝日(春分の日)
22	木	授業予備期間(千葉C科目)(予定)	22	日		22	日	
23	金	後学期定期試験	23	月	再試験期間(千葉C科目 2/28まで)(予定) 基礎看護学実習II(3/6まで)	23	月	
24	土	後学期定期試験 大学入試センター試験 再試験 予備日	24	火		24	火	
25	日	大学入試センター試験 再試験 予備日	25	水		25	水	後学期成績発表(看護1・2・3年生、栄養) 看護学科進級発表
26	月	後学期定期試験	26	木	教授会(予定)	26	木	
27	火	後学期定期試験 追試験日程発表(千葉C科目)(予定)	27	金	臨地実習報告会①(栄養)	27	金	
28	水	後学期定期試験	28	土		28	土	
29	木	後学期定期試験 追試験期間(千葉C科目)(予定)				29	日	
30	金	追試験期間(千葉C科目)(予定)				30	月	
31	土	後学期定期試験				31	火	

平成26年度 千葉第2キャンパス（看護栄養学部）レビュー

1. 平成26年度 振り返り

●学生募集（取組み、成果）

栄養学科への関心を高めるようオープンキャンパスに体験的内容を組み入れた。平成27年度入試の結果、入学者数は看護学科が113名、栄養学科が85名であった。いずれの学科も入学定員を充足できた。

●キャリア支援（取組み、成果）

看護学科の就職に関しては、個別相談会を5月に実施し、6月、7月に教養試験対策講座を開講した。進学者を除く就職率は100%であった。栄養学科3年次生には4月からジョブサポーターを配置し、個別面接を行い、就職の意向を把握した。また、千葉キャンパスのキャリア支援センターと協力しながら前期に就職支援講座を行い、後期は千葉キャンパスの講座も受けられるよう、情報提供をした。低学年向けのセミナーを開催した。

看護師国家試験対策として、成績低迷者には教員が面接を行い、小グループ指導を繰り返し実施した。結果として、看護師国家試験合格率は94.2%、保健師国家試験合格率は100%であり、看護師の方は目標値（100%）を下回った。栄養学科は2年次生対象に9月に「国家試験に向かったの勉強法」講座を行い、欠席者には教員が面接を行い指導した。3年次の成績低迷者にはアドバイザーおよびキャリア支援委員が面接を行い、模試の目標点を設定し、後学期から勉強会を開始し、3月には対策講座も行った。

●正課活動（取組み、成果）

81.3%の科目にアクティブラーニングが導入されていた。ループリックについては、看護学科は看護実習における倫理的態度についてのループリックを前学期に作成し、後期から試験的に使用し始めた。その他、1科目の実習で独自のループリックが作られている。

●正課外活動（取組み、成果）

ボランティア講座の参加者数は56名で、修了者数は43名であった。修了者数は去年の2倍、修了率は77%と大幅に増加した。

●その他

自習環境の整備として、7月よりモバイルの貸し出しを始めた。9月より図書室の開館延長を行い、学生ホールのスペースを広げ、自習しやすくした。

看護学科のアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを作成し直した。

2. 次年度への課題、方策

- 1) 看護師国家試験合格率100%、保健師国家試験合格率100%。管理栄養士国家試験合格率全国平均以上を目指し、両学科の4年次生、特に成績低迷者の国家試験に取り組む意欲をひきだし、国家試験対策講座の実施および学生出席率100%を目指す。3年次生の国家試験対策スケジュールを早期に立て、周知徹底する。
- 2) 就職希望者の就職内定率を、両学科ともに100%にする。

以上

1 学生の受け入れ（在籍管理）

関連委員会	入試広報委員会
関連部署	千葉アドミッションオフィス、入試課
関連データ	

1 平成26年 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 栄養学科の受験者を一昨年並み（267名）まで回復する。
- (2) 栄養学科の入学者を80名確保する。
- (3) 看護学科の入学者を100～110名の範囲で確保する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 栄養学科の認知度を高めるため、オープンキャンパスで、できるだけ体験的なものを入れるとともに、アドミッションと連携を密にし、出張講義などを積極的に行う。
- (2) 栄養学科は年内の入試で50名以上（65%、昨年は58%）は確保するようにする。
- (3) 看護学科の一般入試の辞退率が低く、定員を超える（114名）入学生となったことから、一般入試の合格者数を少し抑える。
- (4) 入学後のGPA変化の分析により、入試区分ごとの合格者を見直す。
- (5) 指定校での入学者の学力評価結果から、入学枠はふやさずに、入れ替えで対応する。

3 取組状況

DO

- (1) オープンキャンパスでは体験ブースを行うだけでなく、今年から学科ごとの説明の時間を設け、入学後の学習等がイメージしやすいようにした。アドミッション職員による高校訪問でも、県内に本学栄養学科が認知されてきている手ごたえがあった。
- (2) 栄養学科はAO I～Ⅲと、推薦入試での志願者の合計が76名から97名（前年比1.28倍）へと増え、年内に60名を合格とすることができた。
- (3) さらにデータ分析の結果、前年度看護学科は一般入試の補欠繰り上げを早期に行ったことが定員を上回る結果を招いた可能性があり、一次合格者を増やし補欠繰り上げを慎重に行うこととした。
- (4) 平成22年から25年の入学生を対象とした入試区分ごとの学生の成績調査（平成26年9月大学協議会資料）によれば、学部全体としてAO 1期合格者のGPAが低く、一般入試やセンター入試のGPAが高い、AOや指定校推薦で入学した学生の退学率はやや高めであるなどの傾向がみられている。
それらの結果と、定員確保の問題を総合して、入試区分ごとの合格者数を決めてゆく必要がある。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 栄養学科は志願者330名（前年比1.3倍）、受験者315名（前年比1.29倍）となり、85名の入学生を確保することができた。
- (2) 看護学科の27年度入試では、志願者数は636名（昨年度より9名増）であったが、内訳としてAO入試が104名から161名へと増加し、反対に一般入試が264名から214名へと減少した。AO入試の志願者が多かったことから、AO I～Ⅲ期入試での合格者数を33名（昨年より4名増）とした。一般入試での合格者は59名（昨年は111名）としたが、昨年度より手続き率25%も上がり、一般入試での入学者は33名（昨年より9名減）となり、全体では113名（昨年より1名増）となった。
- (3) 志願者の構成や一般入試合格後の手続き率などが毎年異なっている。そのため、AO I期の合

格者数を決める時点で全体の予測を立てることは難しく、入学者のGPAが高い入試での合格者の比率を意図的にあげることは難しい。看護学科は実習設備、実習施設等の関係で定員に近い入学者数にとどめる必要があり、今後もデータの蓄積と分析が必要である。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 栄養学科が今後とも安定的に受験生を確保できるように、オープンキャンパスを工夫するとともに、高校訪問にも力を入れる。
- (2) 両学科とも実習設備や学外実習の受け入れ先等の制約があり、入学定員を大きく超える入学生の受け入れはできないため、可能な限り正確な入学者数になるよう、さまざまなデータの分析結果を生かす。
- (3) 今後、センター試験の廃止など入試制度が大きく変わるので、選抜基準や人物評価の方法について検討を始める。

以上

2 教育課程①〔看護学科〕

関連委員会	看護学科
関連部署	
関連データ	

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 国家試験合格 — 100%
- (2) 大学間連携事業の推進
- (3) 教員や学生の地域への貢献の継続
- (4) 成績低迷者や留年生の把握と指導
- (5) 教員の教育力の向上と研究への取り組み強化

2 具体的計画

PLAN

- (1) 今年度は早くから模試や面接の計画を立て、成績が伸び悩む学生の指導をキャリア委員会とアドバイザーと共に把握して強化する。
- (2) ルーブリックの教室外プログラム（実習）での試案を作成する。FDと協力して研修会の企画と看護学科独自の勉強会を実施する。各教員がアクティブラーニングを導入したことを受けて、効果判定を行う。
- (3) 地域連携委員会で企画した松ヶ丘地区との連携協働事業 — 「ひだまり」での健康栄養相談の継続、病院（千葉東病院や下志津病院）との連携による学生ボランティアの活動を広げる。
- (4) 成績低迷者や留年生へのアドバイザーの指導について情報交換会を企画する。
- (5) 学科会や研究公開委員会の活動などを利用して、研究の発表会などを企画する。

3 取組状況

DO

- 1) 国家試験の結果 — 合格は94.2%であった。6名不合格であった。保健師は100%合格した。
- 2) ルーブリックの活動については、FD委員会とともに研修会を実施した。看護学科では、臨地実習におけるルーブリックの導入のための検討・勉強会を実施した。4月から4回の勉強会を実施し、ほとんどの教員が4回とも参加した。3年次生の領域別実習で実際にルーブリックを開発し、試行した。アクティブラーニングは各教員がシラバスに盛り込み、実施が促進された。2科目はアクティブラーニングを取り入れるよう、各教員に依頼し、シラバスを確認した。看護学科ではむしろ重なりが多く、時間外の学習となることもあり、学生の負担になっていた。
- 3) 地域連携委員会主導で行われたひだまりにおける健康栄養講話／相談を今年度も月2回、合計16回実施した。地域住民参加者は2月末で延べ318名であった。連携病院への学生ボランティアの参加については、千葉東病院は花火大会・Xmas会・病院ロビー装飾ボランティア等に参加、下志津病院については車椅子講習・夏祭りフェスタに参加した。参加延べ人数は55名であった。
- 4) 成績低迷者や留年生に対して、アドバイザーからの指導は継続的に行われていた。
- 5) 応募説明会の参加や、科研応募への促進活動の結果、平成26年度の科研費応募申請は6件（採択0件）であったが、平成27年度の科研費応募申請状況は12件と昨年比2倍の応募となった。その結果、採択されたのは看護栄養学部は5件（看護4件、栄養1件）であった。研究公開委員会主催による研究報告会（平成26年8月1日開催）が開催された。看護学科教員2名が発表し、研究内容の共有や知識を深めることができた。

4 点検・評価

CHECK

- 1) 最後の模試は成績があがってきたが、教員としてはもう少し早い時点で安心させてほしいと思っている。キャリア支援委員会には積極的に学習会などを設けて学生に学習を促してもらっているが、後期は教員不足の関係から、方策を考える必要がある。今年度の不合格者の分析を行った結果、低学年次から成績が低迷しており、1年次から指導していく必要があることを確認した。
- 2) 看護学科ではルーブリックの学習会を精力的に行い、臨地実習での試行までおこなうことができた。アクティブラーニングについては科目（領域）によって学生のグループメンバーが異なるので、学生が集まりにくい問題があるため、今後やり方を考えていく必要がある。
- 3) 今年の取り組みは行政や社協、地域住民の本学部への期待が高く、今後も継続を要望されていることから次年度も実施していく。学生ボランティアについては今年度は両病院ともに学生ボランティアについて周知がなされ、活動の幅が広がった。
- 4) 学生が自ら担当アドバイザーのところまで来る学生は少なく、成績低迷者に対しては積極的に働きかける必要がある。
- 5) 研究発表会は計画の予定通り実施された。科研の応募に関しては、締め切りが実習中になるので、計画的に進めてもらいたい。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- 1) ルーブリックの修正と開発、アクティブラーニングの実施と評価
- 2) 国試対策・学生への支援についてキャリア委員会だけでなく、学習支援委員会や他の教員にも協力してもらい協働で対策を講じる。
- 3) 教員のスキルアップを目的にFD委員会主導の学習会などを企画する。また科研応募への促進活動を継続してもらう。
- 4) ディプロマポリシーが変わることから、カリキュラムの整合性を検討、カリキュラムマップの作成等検討する必要がある。

以上

2 教育課程②〔栄養学科〕

関連委員会	栄養学科
関連部署	
関連データ	

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

栄養学科の主たる方針は以下の二点である。

- (1) 入学定員（80名）の確保
- (2) 授業内容の充実

2 具体的計画

PLAN

- (1) 入学定員（80名）の確保

オープンキャンパス等において受験生はもとより、保護者に対して本学科の目的・方針などを十分理解できるように丁寧な説明を心がける。また、高等学校への出張講義などには積極的に対応する。また、アドミッションオフィス、入試課、広報担当などの関連部署と密接な打ち合わせをして齟齬の無いようにする。以上の事などから26年度入試の総受験者数を定員の3倍（240名）以上を目標とし、入学定員80名を確保する。

- (2) 授業内容の充実

法律の改正、新規事項の追加、管理栄養士国試の出題範囲などを盛り込み、新鮮味のある充実した、かつ分かる授業を展開する。それぞれの専門分野において管理栄養士の国試を念頭に置いたより専門性の高い授業を展開し、管理栄養士の重要性を認識させる。

3 取組状況

DO

- 1) 高等学校6校の出張講義に出席し栄養学科の説明を行った。平成27年度入試の総受験者数は昨年度の（267名）以上を目標としたが、現時点ではそれを上回り目標を達成した。年内にAO入試、推薦入試で60名を確保した（定員の75%）。その後の一般入試、センター試験利用入試の志願者は前年度を上回った。これらの入試で85名が入学手続きを済ませており、今後の入学取り消しを考慮しても定員確保は可能と考える。

管理栄養士国試の出題範囲などを盛り込み、新鮮味のある充実した、かつ分かる授業を展開する。それぞれの専門分野において、管理栄養士の国試を念頭に置いたより専門性の高い授業を展開する。栄養学科は開学3年目に入り総学生数も200名を超えた。2年生は年間を通して実験・実習科目も多くなり目的意識も高まった。更に、3年生は保健所、病院、学校での臨地実習を終えて、更に目的意識も高まった。また、キャリア支援委員会、学習支援委員会などの協力により、管理栄養士国試を念頭に置いた授業内容が展開できたと考える。

- 2) 授業内容の充実

1年生に対しては化学、生物に関する基礎学力不足の学生がみられ、補習を学習支援委員会のもと実施した。外部講師に依頼しているが、その出席率を90%以上としたが、実際は77%でありこの目標は達成できなかった。補習が土曜日に行われたこと及び学生の意欲の低さ等が、目標を下回った理由と考える。意欲の向上、学生としての自覚を持たせる指導が重要と考える。

4 点検・評価

CHECK

平成26年度は新入生の定員は確保できなかった。更に、進路変更、経済的理由などから2名が退学した。入学前の学科内容の理解不足が要因と考える。今後、オープンキャンパス等において十分な説明が必要と考える。栄養学科の学生の目標の一つは国試に合格することである。

そのために、2年生以上に対しては学力向上の様々な方策を取り入れたが、学生が消化しきれないところがある。一方的にならないような工夫が必要と考える。

5 次年度に向けた課題

ACTION

引き続き、定員の確保、成績低迷者の学力向上、家庭料理技能検定とフードスペシャリスト試験の合格のための模擬試験・補講の実施、国試対策をキャリア委員会及び学習支援委員会と共に進めたい。更に、学科行事としてテーブルマナー、日帰り研修も26年度同様に実施したい。卒論の部屋の確保、機器の整理などを行いたい。また、文科省への届出書類では卒論担当教員は7名であるが講師以上全員が担当できるように届け出をする。

以上

2 教育課程③〔教務委員会〕

関連委員会	教務委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 看護学科は平成23年度入学生が4年生を迎える。今年度で終了する科目や単位数が変更になる科目があるので、留年生については対策を講じる。
- (2) 看護学科は前学期の成績判定がスムーズに行えるようにする。
- (3) 両学科とも成績低迷者や留年者への指導を行う。
- (4) 栄養学科は1期生が3年生になり、実習開始に際して履修が円滑に進むよう考慮する。
- (5) 成績に関すること、進級・卒業に関する判定を協議し、円滑に進める。
- (6) 新年度初めのオリエンテーションをおこない、次年度に向けての評価を行う。
- (7) 昨年度の授業外での学習時間が少ないという結果を受け、時間数を増やす。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 学生の履修の漏れがないように、把握する。すでに4月に始まる保健医療福祉行政特論は時間割の変更を行い、授業に参加できるよう調整を行った。
- (2) 6月には、準備を開始し、多くの教員がかかわるので統一した指導ができるようにオリエンテーションを行う。評価が時間的にタイトな予定なので、実習中から考慮する。
- (3) 成績低迷者や留年生に対して、指導の強化を行う。アドバイザーからの情報交換なども行う機会をもつ。栄養学科は国家試験対策講座を設け、指導強化する。
- (4) 栄養学科は今年から実習が始まることから、開講順序に従って履修できるよう、またできるだけ再履修科目が優先してとれるようアドバイザーが指導を行う。
- (5) 栄養学科も成績判定の会議を設けて、情報交換を行う。看護は例年どおり行う。
- (6) オリエンテーションについては、概ね予定どおり終了したが、時間の変更や順序の変更、また上級生が相談対応できるような時間帯を設けるような計画をする。
- (7) 看護学科1～3年生は学科会議等で情報収集し、アドバイザー、学習支援委員会、キャリア支援委員会と連携して指導する。栄養学科は実習での評価等、指導強化する。4年生にむけて国試対策、キャリア支援プログラムを具体的に計画し、始動する。

3 取組状況

DO

- (1) 看護学科は今年度は複数のカリキュラムが進行し複雑な年であったが、留年生の科目読み替え等に対応した。時間数が減少した科目については、新カリ科目で不足時間数分の補習を実施した。また今年度で終了する科目については、3年次生も一緒に受講した。
- (2) 老年看護学実習Ⅰ（2年次生）、成人看護学実習Ⅰ（3年次生）は9月に入ってから科目で、前学期であることから、前学期の成績判定まで十分な時間が確保できなかった。
- (3) 成績低迷者については両学科ともアドバイザーが面接を実施し、学習の指導を行った。栄養学科は11月に国家試験の受験の意志確認を行い、3年次用模擬試験について、目標点数の設定をした。看護学科は4年次生の低迷者に対しては時間外に自己学習の支援を行った。また看護学科は学生の実習について毎月学科会議で報告を行っている。栄養学科は学生全体の報告会として臨床栄養実習Ⅰは3月に、臨床栄養実習Ⅲは6月に行う。
- (4) 栄養学科は実習の期間が長く、実習日が分散していることで学事日程と実習日程の調整がむずかしく、授業の欠席者が多くなる科目があったため、土曜日等に補講の集中講義をいれ、全員が受講できるようにした。8月に両学科合同のマナー講座を実施した。栄養学科は再試

日程の日に実習日が重なり、実習終了後に再試験をした。複数科目再試を受ける学生もあり、16:30~17:30、17:45~18:45で実施した。

- (5) 進級に関する協議については看護学科は判定会議を行った。栄養学科は履修規定を一部変更したが、実習要件との整合性を図るために、3年の臨地実習履修可能者は3月の教務委員会で判定した。また修得状況をアドバイザーへ周知し、指導を促した。
- (6) 今年度実施したプログラムや方法について5月の委員会にて評価を行った。
- (7) 各教員が課題を出すなどの授業の工夫を行った。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 予定どおり行えた。
- (2) 実習が終わり、担当者に早急に評価結果を提出してもらった。
- (3) 栄養学科は学生自身が学習の必要性は感じていると思われる。看護学科の4年生は1月の模試の結果が全体的に上昇していた。(キャリア支援委員会より)
- (4) 栄養学科の参加者は7割であった。出席した学生は両学科合同で行うことで互いに意識し積極的に参加する様子も見られ、効果的であった。実習期間中の再試については、今後学生の負担を考えると、実習日程と再試験日は重ならないように調整する必要がある。
- (5) 臨地実習履修可能者は3月の教務委員会で判定し、決定した。
- (6) プログラム内容の見直しとして、栄養学科では学習支援策として、看護はCBTを行っているが、代替を行う予定である。お花見を盛り込み、担当教員と先輩を動員してグループごとに交流を図ったが、雨天であり、来年は室内でもできるような計画を立案する。
- (7) 1年次生には時間外での学習方法のオリエンテーションなど行っているが、2~3年生に対しては各教員で指導強化しているが、教務委員会としての評価は行えなかった。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 栄養学科については来年度にカリキュラムの変更を行う予定である。
- (2) Webでの効率的な評価をおこなう。
- (3) 看護の4年次生の低迷者については、アドバイザーからの指導の機会を増やす。
- (4) 栄養学科の学生の実習態度については指導方法を検討する。
- (5) 来年度は両学科とも低学年生への指導方法について検討する。

以上

2 教育課程④〔教職課程運営委員会〕

関連委員会	教職課程運営委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

1) 栄養教諭教職課程

- (1) 平成27年度に実施する第1期生の栄養教育実習が円滑に行えるように、指導体制の整備を行う。
- (2) 臨地実習（給食経営管理）と教育実習（栄養教諭）との連携を図り、管理栄養士の資質をもった教師を養成する。
- (3) 平成28年度栄養教諭採用試験に向けて、合格者を出す試験対策を講じる。
- (4) 完成年度に向けて、栄養教諭1種免許状取得のための養成カリキュラムについて検討を行う。

2) 養護教諭教職課程

- (1) 養護教諭2種免許状取得を希望する学生に対し、必要な情報提供と指導を行う。

2 具体的計画

PLAN

1) 栄養教諭教職課程

- (1) 履修カルテを活用し、教師としての使命や栄養に関する専門性の高い資質を身につけ実習に臨めるように指導する。そのために、教育実習事前事後指導に関わる手引き・実習ノートの作成を行い、それを活用した指導をスタートさせる。
- (2) 栄養教育実習は、臨地実習4単位を踏まえて行うことが重要とされている。そのためには、栄養学科実習委員会における指導の流れの中で、連携を密にして効果的な実習が行えるよう体制を整える。具体的には、千葉市教育委員会管内の学校給食施設において臨地実習IIを行い、教育実習もできるだけ同一校で受け入れていただけるように連絡調整をする。
- (3) 一般教養、教職教養及び栄養教諭関連専門試験内容（食に関する指導と学校給食管理）に踏み込み、実力をつける対策をたてる。
- (4) 完成（平成27）年度に向けて、栄養教諭教職課程カリキュラムの科目数、単位数、開講年次、開講学期等について問題の洗い出しを行う。

2) 養護教諭教職課程

- (1) 1年次生に対し、入学時オリエンテーションの中で、養護教諭2種免許状取得について情報提供する。
- (2) 2年次生に対し、養護教諭2種免許状取得に際し、保健師免許取得が必要であり、保健師教育課程履修要件について情報提供する。
- (3) 保健師教育課程履修者に対し、保健師免許取得後、申請により養護教諭2種免許状が取得できることを説明し、取得に必要な履修科目および単位について情報提供する。なお、情報提供に必要な資料を事務部と協力して作成する。

3 取組状況

DO

教職課程運営委員会は、教育職員免許法で規定されている教育免許状（養護教諭2種、栄養教諭1種）の取得希望者に対して、それに関わる事項を円滑に運営・処理できるように活動を行ってきた。

- (1) 履修カルテを活用し、教師としての使命や栄養に関する専門性の高い資質を身につけ実習に臨めるように指導した。教育実習事前事後指導に関わる手引き・実習ノートの作成を行い、それを活用した指導をスタートさせた。

- (2) 臨地実習（給食経営管理）と教育実習（栄養教諭）との連携を図り、管理栄養士の資質をもった教師を養成するために、臨地実習委員会と連携をとり準備を進めてきた。平成27年前学期には、同一校において教育実習を行うよう準備を進めている。
- (3) 養護教諭2種普通免許状取得者に対して、オリエンテーションを行い保健師教育課程の選抜試験について説明するとともに、養護教諭の免許状取得の方法についても説明した。また、保健師教育課程履修者には、養護教諭免許状の申請に必要な履修科目および単位について資料を作成し、それを活用しながら指導を行った。
- (4) 平成28年度栄養教諭採用試験に向けて、数名の合格者を出せるよう、千葉キャンパスや第2キャンパスのキャリア支援室と連携をとり、引き続き試験対策を講じている。
- (5) 完成年度に向けて、栄養教諭1種免許状取得のための養成カリキュラムの検討を行い、学生が単位の習得がしやすい開講時期を示すことができた。検討内容を教務委員会に示し、平成27年度から変更できる科目は実施できる状況にある。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 履修カルテの記入や活用法について事務部と協力して指導を行い、教職実践演習に活用できるよう準備ができた。また、栄養教育実習の手引き・実習ノートの作成を行い、それを活用した指導をスタートさせている。
- (2) 管理栄養士の資質をもった教師を養成するために、臨地実習委員会と連携をとり準備を進めてきた。また、千葉市教育委員会（指導課、保健体育課）の指導を受けて、平成27年度前学期には、3年次に臨地実習を行った同一校において教育実習の承諾もいただき学生の指導を行っている。
- (3) 養護教諭2種普通免許状取得者に対して、①保健師教育課程の選抜試験②養護教諭の免許状取得の方法③免許状の申請に必要な履修科目および単位説明に関する資料作成をし、それを活用した指導の実施状況の点検を行ったところ、計画どおり実施することができた。
- (4) 平成28年度栄養教諭採用試験に向けて合格者を出せるよう、千葉キャンパスで実施される対策講座や第2キャンパスのキャリア支援室の支援を受け、試験対策を講じた。しかし、教員採用試験受験に向けての機運は、今少し低調であることは課題として残った。
- (5) 完成年度に向けて、栄養教諭1種免許状取得のための養成カリキュラムの検討を行った。また、完成年度を待たず開講時期が変更可能な科目を検討し、教務委員会に提案し、平成27年度から実施できる科目もある状況になった。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- 千葉キャンパスと千葉第2キャンパス「教職課程運営委員会」が、どのように連携をすれば、効果的な運営ができるか体制づくりを検討する。
- 第1期生の栄養教育実習が有意義に実施できるように、教職課程運営委員会が学生支援に努めていく。

以上

2 教育課程⑤〔カリキュラム検討委員会〕

関連委員会	カリキュラム検討委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 現行カリキュラムへの学生からの評価を得るため、2、3年次生にアンケートを実施する。
- (2) 卒業生からのカリキュラム評価を継続して行う。
- (3) 教員によるカリキュラム評価を継続して行う。
- (4) 栄養学科の完成年度後のカリキュラム改正に向けた作業を開始する。

2 具体的計画

PLAN

- 1) アンケート内容の見直し、修正を行い、5月中に実施する。
- 2) 平成24年度看護学科卒業生に送付したアンケートの結果を分析し教授会に報告する。
平成25年度看護学科卒業生へのアンケートは3月頃実施する。
- 3) 昨年度末に実施した教員からのアンケート結果を分析して教授会に報告する。また、年度末に再度教員アンケートを実施する。
- 4) 栄養学科は次年度10月にはカリキュラム改正案を文部科学省に提出できるように、これまで実施したアンケート等を参考に、改正案の検討を開始する。

3 取組状況

DO

- 1) 看護学科2、3年次生には5月、栄養学科2、3年次生には内容を一部見直し7月にカリキュラムアンケートを実施し、10月の教授会で結果を報告した。
- 2) 卒業生対象アンケートは26年3月下旬から4月上旬に行われ、98名に郵送したが、14名からの回答であった。この3年間の報告をまとめ、7月の教授会に報告した。
- 3) 教員によるカリキュラム評価は前年度3月末に実施し、結果をまとめて5月の教授会に報告した。今年度末に再度、アンケートを実施した。
- 4) 栄養学科完成年度後のカリキュラム改訂に向け、これまで実施した学生、教員へのカリキュラムアンケートおよび学生生活実態調査等を参考に11月から作業を開始した。指定規則や国家試験出題基準なども加味しながら、3月末までに学科内の案をまとめた。
- 5) 自己点検評価委員会から看護学科のカリキュラムポリシーを、学部のカリキュラムポリシーとの整合性のあるものとする方向で検討するように指示があり、9月から検討を開始して、委員会案を2月の学科会議に提案し了承を得た。2月の教授会で報告した。

4 点検・評価

CHECK

- 1) 看護学科1、2年次生は昨年度と比較して、看護への興味関心の高まりと臨地実習の時期や期間についての評価がかなり高くなっていた。しかし、2年次にはカリキュラムが過密であり、負担が大きいと感じている学生が多かった。栄養学科は1年次で管理栄養士に対する興味関心は高まったと回答しているが、建学の精神の理解、他学部との授業科目による効果については1、2年とも評価が低かった。昨年度評価の低かった授業の過密性については、1年次は評価が高くなっていたが、2年次生では相変わらず過密との意見が多かった。栄養学科は完成年度後のカリキュラムを検討中であり、この結果を反映する必要がある。
- 2) 卒業生アンケートは回収率が低いため、一部の卒業生からの評価にとどまっている。その結果では、情報、解剖生理・病理、人間関係の授業が役立っている、技術や看護研究はもっとやっておきたかったなどの評価が聞かれた。今年度は病院宛に送付し、所属長から手渡しで

配布する方式とし、ホームページでの回答も可として回収率を上げる。

- 3) 教員アンケートについては、看護学科はカリキュラムマップの必要性、カリキュラムポリシーとディプロマポリシーの整合性がないのではないかといった意見があった。本年度、自己点検評価委員会から学科のカリキュラムポリシーを見直すよう指示があったので、学部のポリシーとの整合性等を考えつつ、改正案を作成し学科で了承を得た。栄養学科では科目の順序性についての意見が多く、今年度末のカリキュラム改正で検討する。
- 4) 次年度7月には改正案を理事会に上げ、9月中に文部科学省に提出していかなければならず、今年度末までに教育課程を完成させる方向で、学科と当委員会で検討した。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- 1) 看護学科は、24年度入学生から新カリキュラムとなっており、27年度でカリキュラムが一巡する。頻繁なカリキュラム改正は、学生、教員にとって混乱を招く可能性があり、今後の指定規則の変更などがあれば、タイミングを合わせて改正することが望まれる。それまでの間は、アンケートを継続し、緊急性がある場合に最小限の変更を考える。
栄養学科は次年度早々に教授会でカリキュラム改正案が決定できるよう、検討を頻繁に行う。
- 2) 卒業生アンケート、教員アンケートはカリキュラムに関する重要な評価材料であり、今後も継続して行う。

以上

2 教育課程⑥〔看護学科臨地実習〕

関連委員会	看護栄養学部 看護学科実習委員会
関連部署	
関連データ	看護学生のためのヒヤリ・ハット体験事例集

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 各学年で実施される臨地実習を、実習到達目標に沿って効果的に、安全に配慮しながら事故なく進めることができる。
- (2) ヒヤリ・ハット体験報告の報告件数を増やすとともに、学生及び教員間においても、報告内容と改善策が共有できるように進める。前年度のヒヤリ・ハット体験報告書を分析し、今年度の臨地実習に活かす。
- (3) 教務委員会、教育向上委員会等と連携を行い、作成されるループリックを臨地実習において積極的に取り入れる。

2 具体的計画

PLAN

- (1) に対して
 - ・基礎看護学実習Ⅰがこれまでより1か月早い6月末の実施となったので、1年次の学生にとって初めての実習が効果的な動機づけになるように円滑に運営する。
 - ・今年度は学科全体で取り組む成人看護学実習Ⅰが実施される。実習目標に沿った実習が円滑に進められ、教員全体で協働して取り組めるように運営する。
 - ・臨地実習における個人情報の取り扱いにおいて、特に学生のSNS等の不適切な情報漏えいがないように、各実習オリエンテーションで徹底した指導を行う。
- (2) に対して
 - ・昨年度のヒヤリ・ハット体験報告の分析を行い、領域ごとの特徴、気づきのきっかけ、体験報告から得られたものを明らかにする。
 - ・上記の分析結果をもとに、学生に対して事例を用いながら具体的に説明し、ヒヤリ・ハットの意識付けを行う。また教員には分析結果を学科会議で報告し、臨地実習の学生指導に活かせるようにする。
- (3) に対して
 - ・教育向上委員会等の研修会で作成されるループリックが、後学期の臨地実習で活用できるように連携しながら進める。

3 取組状況

DO

- (1) に対して
 - ・基礎看護学実習Ⅰが例年より1か月早い実施となり、新たに成人看護学実習Ⅰが9月に行われるなど、臨地実習の内容及び時期が変更となった年度であった。基礎看護学実習Ⅰに関しては時期が早まることの大きな影響はなく、円滑に進めることができた。また成人看護学実習Ⅰにおいても、担当領域の入念な準備と学科教員全体の協力があり、大きな問題が生じることなく実施できた。その他の臨地実習においても、各実習の目的・目標に沿って円滑に進めることができた。
 - ・臨地実習における個人情報の取り扱いに関しては、成人看護学実習ⅠにおいてSNSによる学生間の個人情報の流出という出来事があったが、幸い大きな問題に発展しなかった。その後の各領域の臨地実習オリエンテーション時に、毎回SNSによる不適切な情報漏えいがないように入念に指導した。

(2)に対して

- ・前年度のヒヤリ・ハット体験の分析を通して、本学の学生が起こしやすいヒヤリ・ハット体験について、主に3年次の領域実習オリエンテーションにて指導を行った。また委員会内で、ヒヤリ・ハット体験報告及び事故報告の内容について共通理解し、複数回の報告がみられる学生に関する情報共有を行った。

(3)に対して

- ・教育向上委員会を中心に学科全体で倫理のルーブリックを開発していたため、臨地実習委員会としての取り組みはない。

4 点検・評価

CHECK

(1)に対して

- ・今年度から実施された成人看護学実習Ⅰは、学科内教員の協力のもとに大きな混乱もなく進めることができた。また領域別実習も予定通り円滑に進めることができた。来年度も引き続き臨地実習の円滑な運営を目指す。また、SNSによる個人情報の漏えいを防止するために、オリエンテーション時の効果的な指導について検討する必要がある。

(2)に対して

- ・学生はヒヤリ・ハット体験報告書を書くことを通して、原因や防止策に関する学習を深めている。また、本学の学生が起こしやすい実習状況を分析し、今後の学生に活かすために、今年度は事例集を作成した。この事例集を有効活用していくことが今後の課題である。

(3)に対して

- ・今年度は学科内全体で検討したため、実習委員会としての活動はできなかった。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- 1) 多くの教員が関わる、基礎看護学実習Ⅱおよび成人看護学実習Ⅰにおいては、教員間の連携を図りながら、教育的かつ効果的な実習を目指す。
- 2) 臨地実習に関するSNSによる学生の個人情報の取り扱いの問題に対しては、次年度も引き続き重点を置き関わる。基礎看護学実習も含め、臨地実習オリエンテーションを通して、より具体的な事例を用いた指導が必要である。また、将来看護職になる学生の個人情報保護の認識を深め、倫理観を育てる関わりを実践する。

以上

2 教育課程⑦〔栄養学科実習委員会〕

関連委員会	栄養学科実習委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1)今年度、第1期生の臨地実習が円滑に実施できるように、指導体制を整備する。
- (2)「総合演習」と臨地実習が相互に効果的に機能するよう充実に努める。
- (3)今年度を踏まえ、平成27年度、第2期生の臨地実習の計画を立てる。
- (4)ループリックの作成に着手する

2 具体的計画

PLAN

- ①各分野の担当教員の連携はもとより学科内教員の意思疎通、共通理解が得られるよう報告、連絡、相談に一層努める。
- ②臨地実習の事前・事後指導として「総合演習」が効果的に機能するように、また、「総合演習」の一環として実施する「実習報告会」に関係教職員の協力体制が得られるように、学科会議などで共通理解を得るよう努める。
- ③来年度は、第2期生に加え第1期生の未実施者が加わるため、実習対象学生が大幅に増加する予定であるので、実習施設の確保および指導体制の確保に更に努める。(今年度59名実施、来年度85名予定で26名の増が予想される。)
- ④学内で実施されるループリックに関する勉強会に参加し理解を深める。臨地実習の効果的な取り組み等に関する先行研究等を学び、本学の現状に即したループリックの作成を試みる。

3 取組状況

DO

- ①第1期生の臨地実習は、シラバスに沿って実施することができた。
内訳)履修者57名
臨地実習Ⅰ：保健所・保健センター：22自治体、延べ28施設
臨地実習Ⅱ：学校：8施設
臨地実習Ⅱ・Ⅲ：病院：20施設
- ②総合演習は臨地実習の事前・事後指導として22コマの演習と8コマの報告会を行い効果的に機能するために、各担当者が協力して取り組むよう努めた。
- ③現在、各分野の担当者が実習地の確保に取り組んでいるところである。実習日程については実習地確保の後、先方と協議して決定する。
- ④臨地実習のループリックについては、委員会において研修会への参加、試案の検討、作成し試行した。

4 点検・評価

CHECK

- ①臨地実習は実習施設の確保に始まり、実習計画、学生指導、実習関係書類の整備、実習先との調整、挨拶・巡回、トラブル対応、報告会実施指導、授業との調整等、年間を通して膨大な仕事量である。今年度は教員の補助として臨時教員を措置していただき、今のところ事故なく実施することができている。今後も各分野の担当教員の連携はもとより学科内教員の意思疎通、共通理解が得られるよう報告、連絡、相談に一層努めていく必要がある。
- ②臨地実習の事前・事後指導として「総合演習」が効果的に機能するように、また、「総合演習」の一環として実施する「実習報告会」に関係教職員の協力体制が得られるように、学科会議などを通じて共通理解を得るよう今後も努める。

- ③ 27年度は、第2期生に加え第1期生の未実施者が加わるため、実習対象学生が大幅に増加する予定であるので、実習施設の確保および指導体制の確保に更に努める。(今年度57名実施、来年度85名予定で26名の増が予想される。)
- ④ 学内で実施されるルーブリックに関する勉強会に参加し理解を深める。臨地実習の効果的な取り組み等に関する先行研究等を学び、本学の現状に即したルーブリックの作成に引き続き努める。

5 次年度に向けた課題

ACTION

学科として臨地実習が円滑に実施されるよう、学内における望ましい実習指導体制の確立にむけて努力するとともに、臨地実習の実施と並行して、取り組みの中で生じる様々な課題に対して臨機応変に検討しながら整備を図る。

以上

3 教育組織〔教育向上委員会〕

関連委員会	教育向上委員会
関連部署	
関連データ	Faculty Development 成果報告書 平成26年度看護栄養学部

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

大学間連携共同教育推進事業「主体的な学びのための教学マネジメントシステムの構築」を実現するため、ルーブリックの開発が促進されるよう、大学間連携教育推進事業担当者と協力し、教員研修を行うとともに、授業公開等をとおして各科目の相互理解を推進する。

2 具体的計画

PLAN

(1) 授業アンケートを適正・確実にを行う

今年度より全学統一書式となった授業アンケート用紙を用いて「授業アンケート」を実施するとともに、臨地実習については、これまでの書式を用いてアンケート」を実施する。15回授業の場合は13回目以降に記入時間として約10分間を確保し、学生には初回授業からを振り返って評価してもらうように徹底する。

(2) 教員研修

1) ルーブリックの開発促進

① ルーブリック開発に向けての学習会

看護学科は実際に開発着手にあたっての原則を再確認する

② 各学科における取り組み

- ・看護学科：各領域実習科目（3年次）の共通ルーブリックを開発
- ・栄養学科：開発すべきルーブリックのテーマ設定にむけての活動を行う。

2) 研修会の企画

時宜を得た研修テーマを把握し、研修会を企画する

3) 教育向上委員の能力開発を意図した外部研修会等への参加

教育向上委員としてふさわしい資質を備えられよう、外部開催の研修会に積極的に参加する

(3) 授業公開

1) 全員参加の徹底

大学の方針・実施方法に従い、授業者としても参観者としても複数の科目に参加できるように、早めに希望を調整する

2) アクティブ・ラーニング実践授業の公開促進

講義科目において、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなど、アクティブラーニングを取り入れている授業について公開を依頼し、多くの教員が参観でき、多くの科目で導入を検討できるような機会とする。

(4) 成果報告書の作成

平成27年6月中の完成を目指す。

3 取組状況

DO

(1) 授業アンケート

前学期・後学期とも講義・演習科目において全科目で実施した。13週目以降、適切に行うことができた。掲示およびポータルシステムを用いた個別通知を併用して学生への周知を徹底するとともに、教員への依頼も徹底した。

(2) 教員研修 ― ルーブリック開発促進のための研修

看護栄養学部研修として、2回研修会を実施し、原則理論を確認した。各学科、臨地実習

で活用できるルーブリック開発にむけて取り組み、看護学科では全教員を参加対象として学科研修会を実施し、ほぼ全員の出席のもと研修会を行った。結果、臨地実習倫理的態度に関するルーブリックを開発し、3年生に配布し、平成27年2月末までの臨地実習期間、実習科目が変わるごとに自己評価を行うよう促した。

(3) 授業公開

一斉メール配信や学科会において教員の意識に働きかけた。11月以降は授業参観していない教員、授業参観を受けていない教員を洗い出し、マッチングさせて参観を促した。結果、栄養学科教員2名を除く全員が他の教員の授業を参観した。その際、授業参観促進活動として、アクティブラーニングを実践している授業を「おすすめ授業」として申告してもらい、参観申し込み者が分かるようにした。

(4) 成果報告書の作成

委員会にて報告書のレイアウトの概略を決め、授業アンケート結果表記について試作を重ね3回目の校正中である。また、各学科実習科目が3月まで行われていたことから、実習アンケートの回収・集計が遅れているが、6月中には完成予定。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 授業アンケートは計画案通りに実施できた。
- (2) ルーブリック開発に向けた研修会及び教員活動は、ほぼ計画通り実施できた。ルーブリック以外をテーマとする研修については実施できていない。また、教育向上委員の能力開発を意図した研修会への参加についても26年度はゼロであったことは改善すべき点である。
- (3) 授業公開については、引き続き全員参加の徹底を図っていく。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 引き続き授業アンケート実施の徹底を図るため、教員・学生に協力依頼を適宜行う
- (2) ルーブリック以外の教員研修会として適切なテーマについて検討する。教育向上委員の能力開発のための研修参加に向けて日程調整を図る

以上

4 学生支援①〔学生厚生〕

関連委員会	学生厚生委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

学生厚生委員会の主たる目的は、両学科の学生の学習の奨励及び学生生活の支援をすることなどにある。

- (1) 奨学金貸与者の適正な選考
- (2) 学生諸団体の活動上の指導

2 具体的計画

PLAN

- 1) 奨学金給付及び貸与者の適正な選考

その選考に当たっては、奨学金のそれぞれの目的に応じ対象者に給付されるよう、適正な選考を行う。

- 2) 学生諸団体の活動上の指導

本学部の学生団体活動は主として学外施設を利用して行われている。本委員会として、諸団体の日常活動を把握し、適切な指導を行う。

3 取組状況

DO

- 1) 奨学金給付及び貸与者の適正な選考

淑徳大学特別給付奨学金、淑徳大学一般給付奨学金、淑徳大学貸与奨学金、日本学生支援機構奨学金の給付者はそれぞれ、2名、2名、14名、20名及び84名であった。更に、千葉県保健師等修資金の給付対象者は58名であった。選考・推薦に当たってはGPA、経済状況、健康状態、勉学に対する意欲、面接等を鑑み判断した。

- 2) 学生諸団体の活動上の指導

届出団体がBuonotoとMaiking project in Shukutoku 2 団体、更新団体がNEO、Shukutokids及びMilkfy-Ashの3団体である。活動は学内外施設で行われているが、特別に指導する点はなく、自主的に適切な活動がなされたと判断している。1年生で音楽を履修している学生を中心とした付置団体『淑徳ハーモニッククラブ』は東病院で12月9日（金）クリスマスコンサートを、更に、平成27年1月9日に共生苑でニューイヤーコンサート行った。いずれも好評であった。

4 点検・評価

CHECK

学資・生活費をアルバイトに依存する学生が多く見られる。そのため、勉学時間不足になり、不認定の教科が重なる傾向がある。奨学金制度を良く理解させ、継続的な勉学ができるように勧めたい。また、前年同様、犯罪被害防止、交通事故防止、インフルエンザ予防接種の奨め、ツイッター書き込みへの注意などを指導してきた。また、携帯やスマホの学内での充電禁止となっているが、守れない学生が見られ、掲示で規則の順守を告知した。奨学資金等の貸与については、経済的な生活状況が厳しい状態にありながら、申請の遅れや、大学からの指導で申請するなど自覚や主体性が欠ける学生も見られた。そのような、学生の指導を今後徹底したい。

5 次年度に向けた課題

ACTION

奨学金制度を良く理解させ継続的な勉学ができるように勧めること、犯罪被害防止、交通事故防止、インフルエンザ予防接種の奨め、ツイッター書き込みへの注意、携帯電話充電禁止な

どを徹底する。看護栄養学部としての龍澤祭参加の有り方を検討したい。また、休暇中などにおける海外渡航の実態等を把握する。

以上

4 学生支援②〔学習支援〕

関連委員会	学習支援委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 入学前・入学時に学力確認テスト（生物・化学）を実施する。
- (2) 補習を実施する。対象者の出席率を90%以上とする。
- (3) CBTを実施する。
- (4) 寺子屋などを実施する。

2 具体的計画

PLAN

- (1) 入学前・入学時学力確認テスト（生物・化学）については、従来の方法をふり返し、改善できる点があれば改善していく。
- (2) 補習については、対象者が生物と化学の両科目受講が必要な場合、両科目とも受講できるように時間割を編成して実施する。また、受講対象者でなくても受講希望者には受講を認める方向で事を進める。
- (3) 看護学科で行うCBTは、4月オリエンテーション時（2、3年生）ならびに（3年生）に実施する。栄養学科ではCBT関連の確認テストを導入すべく具体的な検討にはいる。
- (4) 寺子屋その他の諸活動についても、内容の充実をはかりながら実施する。

3 取組状況

DO

- (1) 入学前（12月）および入学時（4月）に学力確認テスト（生物・化学）を実施した。
入学前学力確認テスト実施後には、テスト内容の解説を行ったほか、本テストの個人別評価票を作成して該当者に配布し、自己学習の便をはかった。
- (2) 基礎学力が不足している新入生を対象に、補習を実施した。生物と化学の基礎学力がともに低い者には、両方の補習を受けることができるよう時間割を編成した。受講対象者でなくても希望する者には、受講を認めた。
- (3) CBTに関して、看護学科は4月のオリエンテーション時（2、3年次生）ならびに8月（3年次生）に実施し、栄養学科は次年度よりCBT類似のテストを実施すべく準備を整えた。
- (4) 後期に寺子屋を実施した。看護学科では対象者を特定（30名前後）して8コマ、栄養学科では対象者を制限することなく14コマ行った。
2号館に学習支援室を設置し、今年度後期から学習支援活動を開始した。なお、入学前準備セミナー行事は、本委員会が主催することになった。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 入学前および入学時の学力確認テスト（生物・化学）は、対象者のほとんどが受験した。
 - ・入学前学力確認テスト実施後のテスト内容の解説ならびに評価票の配布は、好評であった。
 - ・入学前準備セミナー行事に対する参加者の評価は良好であった（大変良かった51%、良かった49%、良くなかった0%、無解答0%）。
- (2) 補習への出席率は70～80%台であり、目標の「90%以上」に届かなかった。
- (3) 看護学科のCBTは計画どおり実施できた。
- (4) 寺子屋について、栄養学科では毎回の参加者が平均して10名に満たず、参加者の顔ぶれも同じになる傾向が見受けられた。
学習支援室を活用する学生の多くは、国家試験を間近に控えた看護学科4年生であった。

- 入学前および入学時の学力確認テスト、入学前学習、補講などに対し、専門業者や外部講師にどのように関わってもらいべきかを論議する必要がある。
- 補習への出席率が目標値（90％）を超えるよう、新たな手立てをうたなければならない。
- 栄養学科における寺子屋の在り方について論議する必要がある。
- 学習支援室については、学生がより利用しやすくすべく、開講日時や支援内容を検討しなければならない。
- 学習支援活動については、本委員会を実施すべきものとキャリア支援委員会で行った方がよいものを区分するための「打ち合わせ」を、適宜行う必要がある。

以上

5 就業支援

関連委員会	キャリア支援委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成26年度活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 看護師国家試験合格率100%、保健師国家試験合格率100%とする。
- (2) 平成24年度看護師国家試験不合格者1名、平成25年度不合格者4名を今年度の合格に導く。
- (3) 対策講座の出席率を90%以上とする
- (4) 看護学科の就職希望者の就職率を100%とする
栄養学科では次年度の就職率を85%以上とするための支援を行う
- (5) 公務員講座を年2回実施する

2 具体的計画

PLAN

- (1) 看護師国家試験について、専門業者による対策講座を実施するとともに、学生が主体的に開催する対策講座を支援する。また、国家試験対策として看護師模擬試4回、保健師模擬試験3回実施し、試験後はできなかった項目を振り返り知識の定着を図る。
模試の成績返却はアドバイザー教員からとし、キャリア支援委員およびアドバイザーが協力しながら学生の指導を行う。
- (2) 平成24年度国家試験不合格者、平成25年度国家試験不合格者について受験の意向を確認して、必要な支援を講じていく。
- (3) 学生への周知を徹底し出席管理を行うことで90%以上の出席をめざす。
- (4) 看護学科では、進学希望者を早い段階で把握し、進学先、受験対策の支援を行う。
栄養学科では、3年生を対象に就職支援講座を実施する。1、2年生を対象とし、就職を意識させる講座を実施する。
- (5) 公務員対策講座を6月、3月に看護学科、栄養学科共通で実施する。

3 取組状況

DO

- (1) 国家試験対策について、①模擬試験は、看護師5回、保健師3回に実施し、学生に模試の振り返りを必ず行うように指導した。②外部講師による看護師国家試験対策講座を6月、7月、9月～11月、12月～1月、保健師国家試験講座を9月～12月に実施した。
- (2) 平成24年度国家試験不合格者1名、および25年度国家試験不合格者3名は、年度当初より試験対策の支援を行った。
- (3) 外部講師による看護師国家試験対策講座、保健師国家試験講座の出席率は90～100%であった。管理栄養士国家試験のために2年生には9月に対策講座を実施し90%の出席率であった。3年生は3月に対策講座、3年生用模擬試験を実施し、対策講座の出席率は90%であった。
- (4) 看護学科では個別相談会を新年度4月に実施した。就職希望者の就職率は100%となった。保健師就職率は希望者全員が就職した100%（4名）。
進学希望者4名は、保健師課程専攻1名、助産課程専攻1名、養護教諭特別学科1名、進路変更のための専門学校進学1名であった。
栄養学科では次年度に向けて、ジョブサポーターを配置し、3年生を対象に就職の意向等を把握した。また、キャリア支援センター（千葉キャンパス）と協力しながら、就職支援講座を前学期に設け、就職活動への意欲を高め就職活動の準備を促した。また1、2年生を対象とした「しごとセミナー」を3月に実施した。
- (5) 公務員講座は看護学科および栄養学科合同で実施した。5月に専門業者によるガイダンスを

実施、6月、3月に公務員対策講座を開講した。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 看護学科における国家試験対策は計画通りに遂行した。さらに学力低迷者への支援、低学年対策については、当初計画に追加しながら行った。
看護師国家試験結果は、在校生98名/104名中が合格(94.2%)した。在校生の不合格者には過年度生、看護師以外の就職者が半数を占めていた。保健師国家試験は在校生30名/30名中が合格(100%)、既卒生6名/6名中合格(100%)であった。
- (2) 平成24年、25年不合格4名のうち3名が受験し1名の合格であった。
- (3) 対策講座の出席率はいずれも目標値90%以上となった。
- (4) 看護学科の就職率は昨年同様に100%となり、学生の希望に沿った就職、進学を支援できた。栄養学科の就職支援対策の講座は計画どおり実施した。
- (5) 公務員講座は6月、3月に実施した。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 看護学科の国家試験について、模擬試験の低迷者には過年度生およびGPAが3年次まで振るわなかった学生が多く、国家試験合格への学力向上に苦慮した。今後も成績低迷者の対象は同様の傾向があると思われ、早期の学習喚起の必要性がある。
栄養学科の3年生では呼び出しに応じない学生に成績低迷者が多くみられていた。また、成績低迷者には、積極的に講座や学習会に参加しようという意欲が見られないため、4月からは国試対策に取り組む意欲を引き出すことが必要である。
- (2) 看護学科において、就職内定報告をしない学生がみられ、随時の内定把握が難しくなっていたことから報告を徹底するように指導する必要がある。卒業生の就労状況の把握について、今年度は検討のみにとどまっているため、さらに進める必要がある。
栄養学科において、就職支援講座への参加は半数程度であり、参加しない学生への状況把握ができていない。今後はアドバイザーとの連絡をとりながら就職支援を強化する必要がある。また、栄養学科では学外実習の関係で前学期に就職支援講座を実施したが、翌3月の就職活動開始を考慮し、直近での講座実施が望ましいと考えられるため、学生個別への連絡の充実を図るなどの対応が必要である。

以上

6 研究活動〔研究公開〕

関連委員会	研究公開委員会
関連部署	
関連データ	淑徳大学看護栄養学部紀要 第7号 淑徳大学看護栄養学部紀要 第7号（別冊）

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 淑徳大学看護栄養学部紀要「第7号」を発行する。
- (2) 看護栄養学部「研究報告会」を開催する。
教員の出席率については75%を目指す。

2 具体的計画

PLAN

- 1) 紀要について
 - ・投稿者と査読担当者間で「十分なやり取り」ができていないとの意見があったため、原稿締め切りを例年より1か月ほど早め、査読を2回することとした。
 - ・発行は例年通り、3月の卒業式前とする。
- 2) 研究報告会について
「研究報告会」を本学部全体の行事としてとらえ、年度当初に決定する。
教員の出席率を上げるため、他の委員会との連携を図る。

3 取組状況

DO

- 1) 紀要「第7号」を3月の卒業式までに発行、納品できるような年間実施計画を立て、それに基づき編集活動を行った。査読を2回行うため、原稿締め切りは例年より1か月早めた。
多くの投稿の依頼がなされたため、時期をずらして、紀要「第7号別冊」を急ぎ発行することになった。本編と同時期の発行は査読日程の都合上無理があったため、3月末での発行とした。
- 2) 研究報告会
第2回研究報告会は平成26年8月1日（金）15時より開催した。発表対象者としては、学内外の研究助成金を受けた教員とした。発表者は看護学科から田代和子准教授、三井督子助教、栄養学科から平岡真実専任講師の3人に依頼した。

4 点検・評価

CHECK

- 1) 紀要「第7号」については、原著論文1編、研究報告4編、資料1編で構成されるものを発刊できた。
紀要「第7号別冊」については、総説1編、研究報告3編で構成されるものを発刊できた。
- 2) 第2回研究報告会は平成26年8月1日（金）15時より開始した。日程を早期に通達したこともあり、参加者数は昨年度より1.4倍に増加した。教員の出席率は73%であり、目標値の75%にはわずかに及ばないものの、ほぼ達成した。教員以外の参加の増加をねらい、ホームページ上での「お知らせ」も行ったが、学生の参加は5名であった。教員の出席率を上げるため、他の委員会との連携を図ったが実現しなかった。アンケート結果を見ると、内容については「非常によかった」と「よかった」を合わせると97%を占めており参加者の評価は大変良かった。改善点については日程・時間帯についての意見があった。

1) 紀要について

次年度の紀要は50周年記念特集号とすることが決定している。記念特集号にするため、早くから内容等を決定し、執筆依頼などをする必要がある。

2) 研究報告会について

- 本年度と同様に、早期に開催日時を決定し、参加を促す必要がある。
- 今年度は終了時刻が延びたので、多少時間を延ばす必要があると思われる。
- 開催日時は今年度も参加しやすい日程、時間帯を選んだつもりであったが、さらに検討して決定する必要がある。

以上

7 社会貢献

関連委員会	地域連携委員会
関連部署	
関連データ	平成26年度淑徳大学看護栄養学部 ボランティア講座活動報告書

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 地域との連携強化を図る。
- (2) ボランティア講座の効果的な運営を図る。
- (3) 学生ボランティアサークルの活動推進を図る。
- (4) 本学部の地域連携活動における情報発信の強化を図る。

2 具体的計画

PLAN

- 1) 地域との連携強化を図る。
 - ①「ひだまり」における健康栄養講話・健康相談を月2回実施する。各領域の専門性を発揮できるよう健康教育を取り入れる。
 - ②松ヶ丘地区行事や地域団体活動への参加を計画的に進める。
 - ③地域との定例会議（連携協働事業）への出席を通して大学の知名度を上げる。
- 2) ボランティア講座の効果的な運営を図る。
 - ①公開講座制とし、教職員、地域住民等幅広く情報公開を行い、講座の認知度を高める。
 - ②近隣病院や幼稚園・保育園、特別支援学級、高齢者福祉施設、NPO活動などボランティア活動の場を開拓し、受講生のニーズに即したボランティア活動の場を提供する。
 - ③学生のボランティア実践において、地域との連携を密に図り、協働参画を促す。
 - ④外部講師、担当教員、事務部との連携を図りスムーズな講座運営ができるようにする。
 - ⑤活動状況を内外に発信できるように、年度末に活動報告書を作成する。
- 3) 学生ボランティアサークルの活動を推進し、リーダー育成に向けた基盤をつくる。
 - ①学生ボランティアが活動できる場を提供できるため、地域との連携をはかる。
 - ②ボランティアサークルのシステムを駆使し、継続的な地域活動を実践する。
 - ③ボランティア講座のメンバーと協働し、リーダー的役割を担えるよう指導する。
- 4) 情報発信の強化、活動内容の浸透
 - ①教職員・学生への情報発信；活動内容を掲示板に随時掲示し、情報の周知につとめる。
 - ②地域への情報発信；地域会議での情報アピール、連携事業HPへの掲載および地域新聞への大学の活動アピール、地域の諸施設へのPRを実施する。

3 取組状況

DO

- (1) “ひだまり”健康教育・健康相談事業の教員参画に関して

松ヶ丘地区との連携協働事業である「ひだまり」における健康教育は、平成26年5月～平成26年3月までの合計17回実施した。内容は各教員の専門分野を生かした健康に関わる講話を設けた。ひだまりの参加述べ人数は、平成26年2月末現在で318名であり、昨年度とほぼ同様の参加者数であった。地域住民からは医学的な専門知識や健康への意識づけができると好評評価を得ており、今後の継続を要望されている。

- (2) ボランティア講座、サークルの運営と成果について

ボランティア講座受講希望者は今年度、56名（看護41名・栄養15名）であり、修了生は43名（看護30名・栄養13名）であった。修了者は昨年度の約2倍であり、修了率は77%であった。今年度も昨年と同様に講義、ゼミナール、ボランティア体験、ボランティアの実施で構成した。

ボランティアは主に松ヶ丘地区の行事や大学周辺の病院、学校、幼稚園、保育園、福祉施設など昨年度と比較し依頼数が倍増し、より選択の幅が広がった。施設からの延べ依頼数は49件であった。

(3) 地域連携活動における情報発信の強化に関して

地域連携活動およびボランティア講座の活動を大学内外に広く周知するため、松ヶ丘地区のHPでの公開およびひだまり新聞への掲載を行った。2号館1階ロビーに掲示板を置き、ボランティア活動の情報およびボランティア募集の掲示物を貼り周知した。また、「ボランティア講座活動報告書」として冊子にし、大学内および地域施設に配布した。

4 点検・評価

CHECK

松ヶ丘地区の拠点“ひだまり”における地域住民への健康教育の実施については、3年目をむかえ、本学部の認知度が徐々に深化拡大している。参加者および主催者（社協）・行政（中央区）からの本学部への取り組みに対する支持は高い。それらから地域住民の健康への意識づけの一助となっていることが推察される。地域からは次年度以降も継続した活動を期待されており、次年度も協働連携事業を継続していく方向で検討したい。

松ヶ丘地区および地域活動への参加については、大幅に活動範囲・活動者数を広げるに至った。さらに、地域支援ボランティアセンターによるボランティア募集は千葉県内外の活動要請を受け幅広い視点からボランティア活動を選択することができた。

ボランティア講座の修了率は77%であり、目標であった40%を大幅に上回ることができた。昨年度の修了率30%と比較し飛躍的な伸びとなった。講座開催日程の調整をはかったこと、ボランティアの活動の募集施設が多くなったことで、よりボランティアの場の選択肢が広がったことも背景にあったと考えられる。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- 1) 地域との協働連携事業を継続し、地域住民の健康意識を高める。
 - ① 協働事業（ふれあい広場ひだまり）の健康講話・健康相談の継続
 - ② 地域行事・地域活動への計画的参加、成果を高める。
- 2) ボランティア講座の効果的な運営および修了率の維持
- 3) 修了生によるボランティアサークルの育成を図る。
- 4) 地域連携委員会活動における地域・教職員・学生への情報発信の強化

以上

8 図書室〔千葉第2〕

関連委員会	図書室運営委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- 1) 平成26年度の図書選書予算に基づき、図書と視聴覚資料の選書・購入を適正に行う。
- 2) 図書の環境をより向上させ、学生の図書利用をさらに充実したものとする。
- 3) 学生・教員が共通で卒業研究や研究などに利用する文献検索などにおける on line system の活用を図る。
- 4) 3年目を迎えた栄養学科の図書の充実を図る。
- 5) 洋雑誌購読の見直しを行う。

2 具体的計画

PLAN

- 1) ①今年度より、各学科ともに総予算額500万円（選書300万円、蔵書調整200万円）となる。購入を希望する図書やDVDに対して、速やかに対応する。
②年間2回実施予定の専門図書の内覧会を図書室にて実施する予定である。
- 2) ①DVDの書庫が手狭になってきているので整備する。
②学生の図書利用状況は、25年度の1カ月平均貸出は学生一人当たり看護学科では2.7冊、栄養学科が0.5冊であった。本年度は、看護学科3.5冊、栄養学科1冊を目標にする。各教科で、教育の中でも図書の活用を推進するように働きかける。
- 3) データベース検索を中心としたガイダンスを、看護学科では2、3年次生に、栄養学科では3年次生に実施する予定とする。
- 4) 栄養学科では、実習や次年度に控えた国家試験に向けての図書の充実を図る。
- 5) 外国雑誌の価格の高騰にあたり、現在契約中の雑誌の見直しが必要と考えられる。

3 取組状況

DO

蔵書冊数は、2015年1月1日現在全体数は30684冊である。

- 1) 平成26年度の図書選書予算に基づき、図書と視聴覚資料の選書・購入を、適正に実施した。
- 2) 図書の環境をより向上させ、学生の図書利用をさらに充実したもとのために以下のことを実施した。
 - (ア) 図書の内覧会を、志学書店の協力のもとに、前学期には6月19、20日、後学期には12月3日に、新刊書を中心に実施した。
 - (イ) 26年度の学生の図書貸し出し冊数は、看護学科学生は一人当たり月2.4冊、栄養学科学生は一人当たり月0.8冊であった。特に栄養学科の学生の利用が増加している。「読書ポイントカード」の利用も推進されている。
 - (ウ) 新入生のオリエンテーション向けのDVDをリニューアルした。
- 3) 学生・教員が、共通で卒業研究や研究などに利用する文献検索などを行う on line system の活用を図るために、以下のことを実施した。
 - (ア) on line system を利用した data base 活用方法などのガイダンスは、3年次生に対して、2回に分けて実施した。
- 4) 3年目を迎えた栄養学科には、実習や国家試験向けの図書の充実を図った。
- 5) 洋雑誌の値段の高騰に伴い、購読雑誌の見直しを行った。
- 6) 夜間開館も順調に実施され、特に試験前の期間は利用者が増加する。

- 1) 図書と視聴覚資料の選書・購入にあたって、看護では視聴覚資料の希望が多いので、来年度は、図書と視聴覚教材の予算額の割合を検討する必要がある。
栄養では、選書にあたって、緩やかな領域別のような枠組みが望まれる。
- 2) 図書の環境に関しては、古くなったビデオの保管や破棄に関して検討を要する。
学生の図書の利用はまだ不十分であると思われる今後アクティブラーニングの推進によってどのように利用状況が変わるであろうか。
- 3) data base活用のガイダンスは、紀伊国屋と司書により順調に実施されているが、来年度は、看護の2年生の後学期、栄養の3～4年生にも実施の必要性がある。
- 4) 栄養学科は学生数も増加し、利用状況も活発になっている良い傾向である。
- 5) 洋雑誌購読の見直しは、順調に行われた。購読が中止になった雑誌もあるが、大学院開設計画にあたっての図書購入において、連携を取っていく。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- 1) 平成27年度の図書選書予算にあたり、看護では、図書と視聴覚資料の比率の見直しを実施する。
栄養では、緩やかな領域毎の選書などの工夫を実施する。
- 2) 図書の環境をより向上させ、学生の図書利用をさらに促進する。
視聴覚資料の保存に関する検討を行う。
- 3) 学生・教員が共通で、卒業研究や研究などに利用する文献検索などにおけるon line systemの活用を推進する。既存のプログラムに看護学科の2年生、栄養学科の3～4年生への「医中誌」などの利用ガイダンスを追加する。
- 4) 完成年度を迎えた栄養学科の図書の充実を図る。
- 5) 看護学科大学院設置（予定）に向けて、図書関連の情報を共有し、より良い図書室環境を作る。
- 6) 図書室利用推進にあたって、学習内容にリンクした「期間限定のテーマやトピックス」に基づく展示の工夫を行い、利用を高める。

9 自己点検・評価

関連委員会	自己点検・評価委員会
関連部署	
関連データ	

1 平成26年度 活動方針・目標

ACTION PLAN

- (1) 今年度も各学科、各委員会の活動にPDCAを継続して実施するとともに、学部の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化を図ることに繋がっているか点検評価する。
- (2) 今年度の目標・成果指標を新たに提示し、平成27年度の目標達成に向け、学部の目指す方向性の共有を図る。
- (3) 看護学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アドミッションポリシーの見直しと記述方針との整合性の点検を開始し、新たな案を作成する。
- (4) 大学年報の看護栄養学部（千葉第2キャンパス）の部分の執筆・編集作業を行う。

2 具体的計画

PLAN

- (1)
 - ① 各学科、各委員会から5月末に活動計画を提出させ、自己点検評価委員会で点検する。当年度の学部学科の方針と合致しているかについて各学科、各委員会と調整を行った後、6月の教授会で報告する。
 - ② 各学科、各委員会から2月末に報告書を提出させ、自己点検評価委員会で点検評価し、3月の教授会で報告する。
- (2)
 - ① 平成27年度までの目標と今年度の目標を4月の教授会にて提示する。
 - ② 年度末に今年度の目標の達成度を評価し、来年度の目標を立てる。
- (3) 看護学科のカリキュラムポリシーについてはカリキュラム検討委員会、ディプロマポリシーについては各学科長、アドミッションポリシーについては入試広報委員会に依頼し、内容の見直しの上、素案を作成し、11月末までに提出していただく。その後、本委員会にて大学の記述方針に従って記述されているか、相互に整合性のある記述になっているかを点検し、最終案を作成する。
- (4) 平成25年度の大学年報の看護栄養学部（千葉第2キャンパス）の部分の執筆にあたり、各学科・各委員会に執筆を依頼し、原稿の取りまとめを行う。その際、大学年報は大学自己点検評価の一環として、PDCAの取り組み結果をまとめ、公表するためのものであることを意識し、PDCAサイクルを実質化させるために記載すべき内容の具体的指示および点検を行う。

3 取組状況

DO

- (1)
 - ① 各学科、各委員会の活動計画は、5月中にすべて提出された。本委員会で今年度の学部学科の方針と一致しているかについて点検し、各学科、各委員会と調整した後、6月の教授会で提案した。
 - ② 活動計画書に基づく活動報告書は2月末までに提出され、その後、報告結果を本委員会で点検評価する。
- (2)
 - ① 教育・研究・管理運営に関する目標・成果指標については、4月の教授会にて学部長より平成27年度までの目標と今年度の目標を提示した。
 - ② 年度末に今年度の目標の達成度を評価し、来年度の目標について本委員会で検討する。

- (3) 看護学科のカリキュラムポリシーについてはカリキュラム検討委員会、ディプロマポリシーについては看護学科長、アドミッションポリシーについては入試広報委員会に依頼し、素案を11月末までに提出していただいた。その後、本委員会にて大学の記述方針に従って記述されているか、相互に整合性のある記述になっているかを点検し、作成した修正案を看護学科会議で検討した上で最終案を決定した。2月の教授会で報告し、来年度から新しいポリシーに変更する。(ホームページ、学生便覧)
- (4) 平成25年度の大学年報の看護栄養学部(千葉第2キャンパス)の部分の執筆を各学科・各委員会に依頼し、原稿の取りまとめを行った。今年度は9月に発行した。

4 点検・評価

CHECK

- (1) 計画通り実施され、各学科、各委員会の活動におけるPDCAサイクルを確立することができた。
- (2) 計画通り実施し、学部の目指す方向性の共有を図ることができたと考える。
- (3) 平成25年度に大学と学部の教育理念・目的、人材養成の目的、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーが整備されたのを受け、今年度は看護学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アドミッションポリシーの検討を行い、新たなポリシーを作成することができた。看護学科の教員からの意見も集約し、教育に対する考え方の基盤を一致させ、目標の共有を図ることができたと考える。
- (4) 今年度は例年より編集作業を早い時期から始めたことにより、発行の時期を大幅に早めることができた。

5 次年度に向けた課題

ACTION

- (1) 次年度も各学科、各委員会の活動にPDCAを継続して実施するとともに、学部の教育・研究水準の向上および管理運営の健全化を図ることに繋がっているか点検評価する。
- (2) 次年度は、創立50周年にあたる年でもあり、平成27年度までの目標の達成度を検討し、さらに今後の学部の目指す方向性の明確化を図る必要がある。
- (3) 次年度は、栄養学科のカリキュラムポリシー、ディプロマポリシー、アドミッションポリシーの内容の見直しと記述方針との整合性の点検を開始する。

以上